

# 県民参加を進める上で大切なこと

## 段取り八分！事前に事業の全体プロセスを丁寧に考える！

県民参加を推進する際、非常に大切なのは「事前に事業のプロセスを丁寧に考える」ことです。事業の目的は何か？県民参加によって達成すべき目標は何か？どんなプロセスで進めていくのか？実行体制はどうするか？県民との情報共有の方法は？等々、事前に検討・準備しておかなくてはならないことは、非常に多岐にわたります。段取り八分という言葉通り、県民参加は事前に入念なプロセスの検討が成否を分けます。

## 失敗の積み重ねから学ぶ！つまずきのパターンをまずチェック！

県民参加で事業を進める場合、絶対に成功する方程式というのは存在しません。地域・事業内容・社会情勢等によって、進め方・方法はケースバイケースだからです。ただ、県内各所で行われた住民参加事例を検証していくと、うまく進まなかった事例には、共通する要因が見られます。「住民参加プログラム つまずきのパターン」と呼ばれるもので、フローチャート形式でまとめられています(次頁参照)。参加型事業を成功させるためのチェックリストとして、活用することをおすすめします。

## 場面・機会によって様々な参加の方法がある

一般的に県民参加というと、計画作成段階で行われるものという印象が強くあります。しかし実際には、それ以外の場面でも県民参加は行われており、県内でも維持管理への参加や工事段階での参加、現状のまちの点検等の事例があります。本書では、そんな事例を紹介しています。

## 「計画段階」といっても検討する内容は様々ある

「計画段階での県民参加」と言っても、実は検討内容は様々です。基本計画(設計)の検討だけでなく、「道路線形を検討する」「沿道に整備するストリートファニチュアのデザインを検討する」といった事例もあります。公共事業における県民参加には、TPO<sup>\*</sup>に応じて様々な方法があるということを本書ではご紹介します。

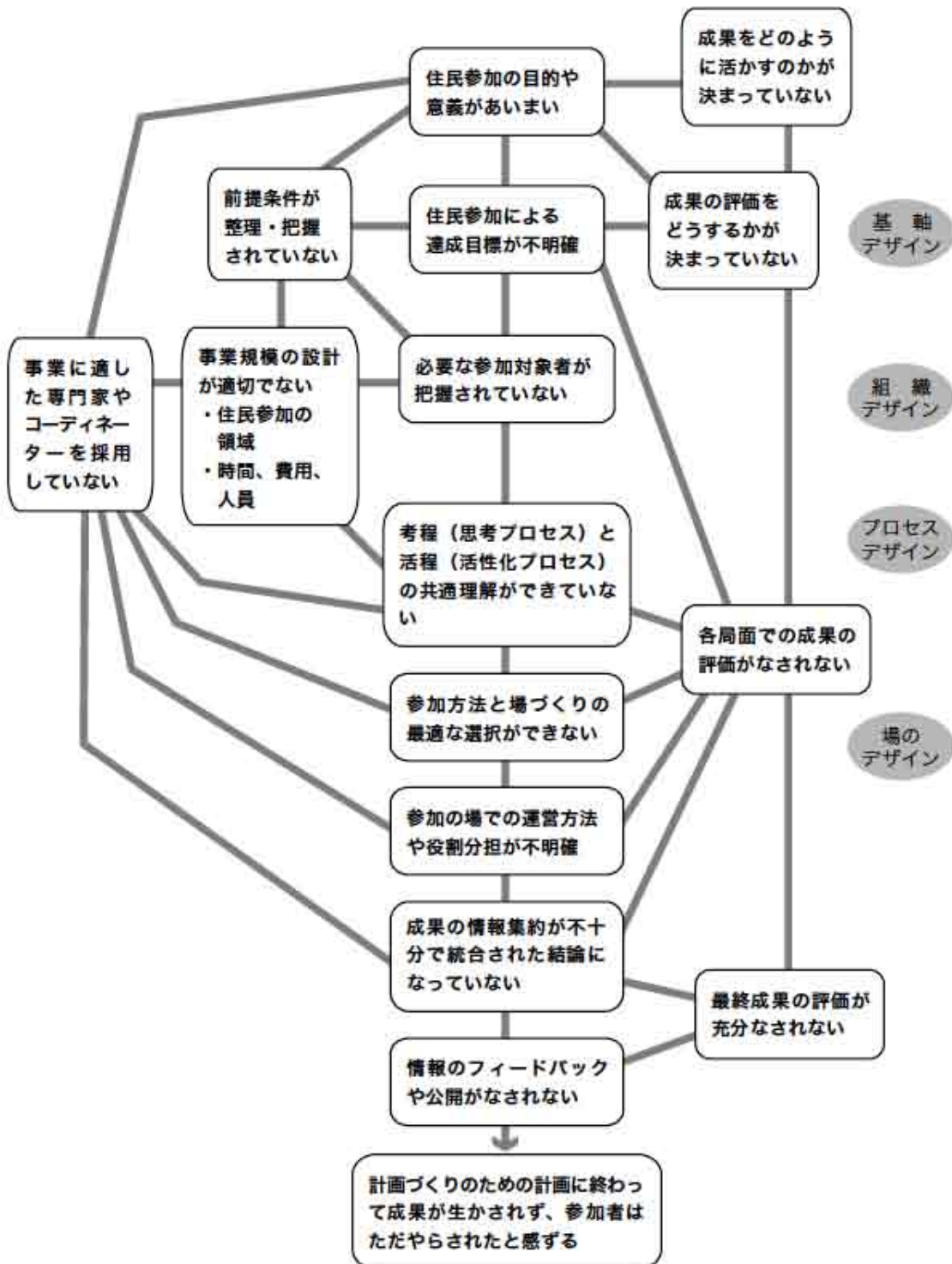
※ TPO：Time(時)Place(場所)Occasion(場合)の頭文字をとった略語です。

## 住民活動を後方支援するために事業を行うケースもある

県民参加型公共事業というと、まず事業があり、そこに県民に参加してもらうという構図になりがちですが、必ずしもそうではありません。地域住民の活動が活発に行われているところでは、その後方支援として事業を実施するというケースも県内にはあります。言い換えれば、地域住民の活動に行政が参加する「行政参加型事業」です。県民参加は「事業ありき」で始まるとは限らず、地域の中にその種が埋もれているケースもあるのです。

# 実りの多い参加型事業のためにも、 始める前に失敗のパターンを味わってみよう。

県民参加型事業がうまくいかないのはなぜ？-そこにはさまざまな理由があります。下の図で確認してみましょう。そして参加型事業を成功させるためには、総合的な手順の組み立て（=トータルプロセスデザイン）が必要です。



---

---

## 維持管理への参加を促すには、それ相応のプロセスが必要！

近年、厳しい財政事情から、整備後の維持管理を地域住民に期待する機運が高まっています。確かに、維持管理を地域住民が担っている事例は、県内でもいくつか見受けられますが、そうした事例ではそれ相応のプロセスを経ているケースが大半です。県民参加で事業を進めれば、必然的に維持管理も地域が担う・・・というのは幻想です。

## 主体的な住民活動を生み出すための近道は無い

本書では、維持管理を地域住民が主体的に担っている事例をご紹介しますが、そこに至るまでは、様々なプロセスを経ています。地道に地域との関係を築きながら、計画段階から様々な場面で参加の機会を設け、その上で地域住民が主体的に維持管理を担っています。